

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
093-321-2931(担当;上野)

第115号 平成27年4月

マリンレジャー事故2件発生(うち、1名死亡)

4月に入り、麗らかな日差しが立ち込める日々が増えてきました。

ゴールデンウィークも間近に迫り、マリンレジャーも活発になり始める時期ですが、この4月には既に3件の事故(うち、1名死亡)が発生しています。

まずは、この4件の事故事例を紹介します。

～ 4月に管内で発生した事故事例 ～

(1) 水上オートバイ死亡事故(1名死亡)

水上オートバイに船長及び同乗者の計2名が乗船して航行していたところ、岸壁に係留されていた貨物船から海中に向かって伸びていたロープがあることを衝突直前に気付き、船長は咄嗟に身をかわすも、**同乗者は**これに気付かず頸を同ロープに引っ掛けて、首の骨を折り**死亡**したものです。

(2) 釣り中の事故

消波ブロックからの海中転落事故(救命胴衣未着用)

消波ブロック上を移動中に足を踏み外し、消波ブロックの隙間に転落しました。現場付近にいた釣り人5～6名が事故に気付き、引き上げ救助して救急車に引継いだものです。

岩場からの海中転落事故(救命胴衣着用)

釣れた魚を掴むため防波堤から岩場に降りた際、防波堤を超えた波にさらわれ、海中転落して沖側へ約10m流されたものの、再び波により防波堤側へ押し戻され、同行していた仲間に助けられたものです。

帰還不能(救命胴衣着用2名、救命胴衣未着用1名)

無人島の磯場で釣りをしていた2名を小型船で迎えに行ったところ、小型船は横波を受けて転覆してしまったことから、海中に投げ出された小型船の船長と磯場の2名の計3名はともに一夜を過ごし、天候が回復した翌日に当庁のヘリコプターにより救助されたものです。

間もなく迎えるゴールデンウィーク時期には、これら水上オートバイや釣り中の事故が増える傾向にあります。

過去には、ゴールデンウィーク中に、次のような水上オートバイの事故や小型船の事故も発生しています。

～ 過去の事故事例 ～

水上オートバイの事故

・ 水上オートバイの同乗者が海中転落

転落した際に頭部を強打したもの

3名乗りの水上オートバイから同時に海中転落した2名の同乗者がお互いに頭部を強打し、死亡したもの

後続の水上オートバイに轢かれ、後遺症を残す負傷となったもの

水上オートバイの噴出流が体内を傷付け、後遺症を残す負傷となったもの

・ 他船と衝突し、後遺症を残す負傷となったもの

小型船の事故

・ ガス欠・エンジントラブル・バッテリー過放電で帰還不能や浅瀬に乗り揚げたもの

・ 発生した霧のために、現在地が不明となり、帰還不能となったもの

過去に発生したマリレジャーでの死亡事故や後遺症を残す事故の再発を防止するため、次に予防策を記しますので、これから釣り等のマリレジャーに出掛ける方は是非、一読をお願いします。

～ 予防策 ～

(1) 水上オートバイの事故防止

水上オートバイの同乗者は、船長と違って前は殆ど見えないために咄嗟の回避動作をとることが困難であり、海中転落時には様々な事故に繋がるおそれがあります。

このため、次の事項を遵守するよう、心掛けてください。

- ・ 水上オートバイの船長は衝突・海中転落の危険性を十分に認識し、適切な操船を心掛ける。

例) 狭い海域や他船の航路上は避け、広くて安全な海域を航走する
常に他船の動静を把握し続け、他船と十分に安全な距離を確保する
必要に応じて、高速走行する前に海域が安全であることを確認する

- ・ 水上オートバイの同乗者は、身体を保護するため専用のウェア(ウェットスーツボトム)等を着用する

(2) 釣り中の事故防止

消波ブロック等からの海中転落は、転落時での頭部損傷等により死亡事故へ直結することや、他者から発見されにくいことから救助が遅れることが多い事故であることから、「海で命を守る3つのポイント」(右下参照)のほか、次の事項を遵守するよう心掛けてください。

- ・ 釣りに行く際には複数人で出掛ける
- ・ 波が高くなる等の危険を感じた際には、早めに釣りを中止して避難する
- ・ 海中転落を防止するため、滑りにくい靴を履く
- ・ 万が一の海中転落時でも発見しやすいよう、明るい服を着用する
- ・ 気象・海象情報を事前に入手して、無理な計画を立てない

(3) 小型船の事故防止

プレジャーボート等の小型船で機関故障が発生した際には、「重大な事故」を引き起こすことから、「海で命を守る3つのポイント」(右下参照)のほか、次の事項を遵守するよう心掛けてください。

- ・ 日頃の整備と発航前点検を徹底する
- ・ 小型船等は風・波に弱いことから、気象・海象の変化による出港取止め、早期の避難行動を徹底する

海で命を守る 3つのポイント

- ライフジャケットの常時着用
- 連絡手段の確保
 - ・ 防水携帯電話の携行!

新規

- ・ 通報位置特定のため、通報時にGPS(位置情報)をON!

- 海のもしもは「118番」

JCG 未来に残そう 青い海
海上保安庁第七管区海上保安本部



バックナンバー

http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anzen_report/